

1 自己評価および外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600510		
法人名	医療法人社団睦会		
事業所名	グループホーム昭和館まどか		
所在地	羽島郡笠松町円城寺947-1		
自己評価作成日	平成23年7月6日	評価結果市町村受理日	平成23年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=2170600510&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、グループホーム周辺には、複数の介護事業者が、運営されているため、利用者やご家族の、安心と満足のある暮らしを支えています。
ホームは、広い空間を持つ木造平屋3ユニットで構成されており、庭は、季節の花や木に囲まれています。
理念である【思いやりがかよう同居人生活】を実践するために、家庭的で楽しい雰囲気、人としての尊厳を守り、適切かつ安全な医療とケアを提供し、ご家族、利用者の希望によっては、看取りまで行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、地域の病院で、利用者の利用前からのかかりつけ病院であり、複数の介護事業を運営している。利用者・家族は、ごく自然に、古くから医療機関とのつながりを持ち、福祉施設も同様に身近なものとして捉えている。利用者は、地域で慣れ親しんだグループホームでの生活を楽しみながら、日々穏かに過ごしている。管理者・職員は、法人の機能を最大に活かしながら、地域と馴染みの関係を大切に、安心して最期まで、満足のある暮らしができるように熱意を持って取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は【思いやりがかよう同居人生活】として全員で取り組んでいる。地域の一員として、ホームにいつでも来ていただけるよう努力している。	地域の住民である利用者に、「思いやりがかよう同居人生活」とした理念がつけられている。会議等において全職員で共有し、日々の生活の中で、理念に添った、思いやりの通いあうケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事に、地域の方を招待したり、散歩に出かけたときに、挨拶と会話でホームを理解していただく。地域のふれあいサロンに毎月1回参加している。又、ふれあいサロン参加ボランティアに施設の行事に参加してもらっている。	住民から行事の誘いを受け、積極的に参加している。地域「ふれあいサロン」で歌やハンドベルを楽しんでいる。ホームの行事や夏祭りに、地域の人を招待するなど、地域住民として交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のふれあいサロンに出かけたときに、認知症については、話す機会がある。笠松町にて開催されている認知症介護者サロンに出かけて、家族の方とお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価後に、ご家族へアンケートを出しそれを基に運営推進会議で話し合いを持っている。	運営推進会議は、年に6回開催し、行政・地域代表・家族が参加している。出席者からは、より多くの意見を家族から出してもらうために、家族アンケートを取ることを提案があり、実施に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は、日程により、出欠にばらつきがある。時間帯や曜日が柔軟に設定され、出席率が高まるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員に毎回、運営推進会議に参加していただくため、どんなことでも話しやすく、相談出来る。	行政主催の研修会等に参加し、多くの情報を得ている。日頃から連携をとり、ホームの現状など報告し、協力関係ができています。精神障がい者の受け入れ等も、町と相談しながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、取り組んでいて、権利擁護委員会が2ヶ月に1回開催されている。玄関の施錠は、しなくてもよい造になっている。	法人全体で権利擁護委員会が開催され、利用者の人権が守られるケアが実践されている。ホームにおいても、利用者の人権と安全を第一に考えた支援についての研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、職員全員に周知している。利用者に対しての言葉遣いや態度が虐待につながらないようにお互いに注意しあったり、管理者に相談したりしている。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、理解しているため相談または、必要と感じたときには、家族に話すようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、十分な説明を行ない、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見、苦情箱を設置している。今年度は、アンケートの内容を変更し、運営推進会議、職員と話し合いを持った。第三者委員の連絡先を書面で配布している。	平日開催する会議には、限られた家族の参加になるため、利用者の生活状況等を毎月送付し、家族の意見を聴くアンケートをとるなど工夫している。アンケートの項目についても意見を求め、提案を受け、変更している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員の意見を聞くようにし、月1回のミーティングに於ても意見、提案を出せる場として運営に反映している。法人代表の理解もある。	行事等は、職員が利用者と共に話し合い、計画を立てたり、家族へのアンケートでは、意見を求める項目を検討し、変更した。月に1回のミーティングなどを行い、管理者や上司と意見交換ができる環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を出来るだけ受け入れ、勤務表に反映している。職員評価は、管理者が年3回行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会、研修情報は職員の目に届くところに掲示して、参加できるようにしている。希望があれば、参加できる。又管理者より必要な研修は、指示する場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者との交流する機会を持っている。職員は、研修時に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期時は、できるだけ多く会話するようにしている。不安や、困っていることは、家族と相談しながら対応する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に時間をかけて話しを聞くようにしている。又、不安なことはすぐに対処できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内にある複数のサービスの事業者の意見も聞き、適切なサービスを支援する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを進んで参加できるような雰囲気作りをし、日々の生活の中から、信頼関係を得るようにして、本人のできる事が日課の1部として役立っている事を理解してもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、毎月利用者の暮らしの情報を郵送している。気持ち、行動、状態などを知ってもらうことで、家族との共有をする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡を密に取り、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努める。隣同士の入居が、多くなり、入居者の家族でなくても近所である事で話しかけてもらえる。	併設の病院へ通院のついでに、家族や馴染みの人が気軽に訪問している。また、利用者が病院で馴染みの人と会い、話に花が咲いている。利用者同士が馴染みの関係でもあり、家族を含め話をする場面を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席を配慮したり、会話を促したり、日常の手伝いの参加の中から思いやる関わりを持つようにしている。塗り絵をしながら、この色はこれでいいのかと話しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談に来て頂けるよう、退所時に話す。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報を得たり、本人の希望、意向の把握に努めるようにし困難な場合は、管理者、職員と相談し希望、意向に沿えるように努力している。	職員は、日々の会話の中で、思いや意向を把握している。困難な場合は、家族の情報を基に管理者を含め協議し、全職員が共有するなど、希望に添ったケアを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族からの情報を基に、生活環境、これまでのサービス利用を把握して、利用者と生活するうえでのアセスメントで把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表の利用や、カルテの記事で把握が出来るようにし個々に合わせた日課表に作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に、カンファレンスを行ない、本人の現状にあったケアプランとなるよう見直しをしている。	毎月発行し、家族に送付する利用者の生活状況から、利用者・家族の希望を聞いている。日々の個人記録を基に、専門職を含めたカンファレンスを行い、きめ細かな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践は個別の記録に記入すると共に、申し送りノートに記入し、情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体が医療法人で、他のサービス事業所があり、いつでも相談でき、利用することが出来る。そのために家族の相談があっても対処できる。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学生のボランティア、研修生の受け入れ、民生委員の方からは、地域の情報をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院なので、家族の方も安心されていて、適切な医療を受けている。	利用開始時に、家族を含め、かかりつけ医についての説明と確認を行っている。家族は安心して適切な医療を受けられることを希望し、全員が母体病院をかかりつけ医としている。週2回の往診と、必要に応じ、その都度往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算にて日常の健康管理は出来ていて、相談はいつでも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを書くことで、情報を伝え、連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の事前確認書を基に、重度化、終末期と医師が判断された場合家族、利用者が、最期をグループホームで迎えたいと願う方に、身体的、精神的苦痛、苦悩を出来るだけ緩和し、日々の暮らしを営めるよう援助する。	契約時に、重度化や終末期に向けた家族の希望を聴き、ホームとしての一定の方針を説明している。重度化や終末期と医師が判断した場合、家族と相談し、他の施設に移るなど、利用者や家族の希望に添うよう、最善の取り組みを検討し、決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急手当や、対応の話し合いをしたり、緊急マニュアルを作成している。AEDと人工呼吸法の講習を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	関連施設が近くにあり、消防、警察、近所の方との関わりを密にして、働きかけをしたり、利用者と共に避難訓練している。	火災訓練は、消防署、近隣の住民、関係機関等の協力を得て、年1回実施されている。夜間を想定した訓練も行われ、マニュアルに基づいた職員研修も実施されている。	地震等を含んだ災害訓練を家族にも参加を呼びかけている。ぜひ、実現に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの中で利用者の情報を共有し、職員同士が意識し合うように話し合いを持っている。	馴れ合いの中から、利用者に対する何気ない言葉で、利用者が傷つくことがないように、日頃から管理者は、職員の言葉使いに気を配り、職員間でも意識し、話し合いを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話時、行動などにて判断し、思いや行動をくみ取り、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を、確認しながら行っている。又、意思の確認が出来ない方は、出来ることを職員がその人にあわせた過ごし方を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて快適な身なりをしていただくよう支援している。又、希望に応じて選ぶ場合もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を聞いたり、食べたいものがあれば取り入れたりして、準備を手伝っていたり、後かたづけなどの出来ることをして頂いている。	利用者との楽しい話題は、やはり食べることが中心になり、食べたいものを献立に取り入れている。利用者の中で、自然に役割が決まったようで、準備、片付けなど、できることをやってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、量は、その人にあったものにし、栄養バランスは法人内の栄養士に、確認する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人にあった口腔ケアを実施している。		

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力に応じて出来る限りトイレでの排泄を支援し、排泄パターンの確認をしてトイレに誘導している。	まず、利用者の排泄パターンを知ることが、職員全体で周知され、動きやしぐさで察知し、トイレ誘導するよう訓練されている。排泄は、できる限りトイレでの習慣を付け、さりげない誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々にあわせた便秘予防をしている。水分量、根菜を多くしたり、内服の調整などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で入浴時間は決めているが、介助時を利用者に合わせた介助をしている。	入浴は、週3回行われている。介助の必要な利用者には2人体制で行うなど、個々に沿った支援を行っている。入浴を楽しむため、個人の希望をできる限り聞き、時間帯を決め、取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿えるよう心がけている。夜間は、眠剤を使用しないで、お茶を飲んでいただいたり会話などして職員と一緒に過ごし休んでもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者、看護師が、把握しており、異常があれば医師に報告している。誤薬マニュアルに沿って服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力に応じて手伝いなどしていただくようにしている。生活歴から、趣味など知ることが出来るが、出来る事が少なくなっている為、コーヒー、嗜好品を提供し気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩には時々出かけることが出来るが、普段いけないところには、家族の協力で出かけることもあります。	近隣を散歩したり、広い敷地内を利用し、ゆっくり会話を楽しみながら散策するなど、利用者の体調に合わせた支援を行っている。個人の希望には、家族に協力を依頼する場合もある。	

岐阜県 グループホーム昭和館まどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して、管理できる方は本人が管理して出来ない方は職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に合わせて手紙を出したり、代筆したり、一緒に郵便局に出しに行く援助をしている。電話は、希望に応じて、援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、行事の写真、飾りなどで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるようにしている。	共用の空間が広々としており、安全な家具がゆったり設置され、和風で、豊かさが感じられる。庭で育てた季節の花を飾り、行事の写真、利用者や職員の共同作品が飾られ、居心地の良く生活できる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、畳のスペース、廊下に椅子を置き、ひとりになる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に相談しながら、馴染みの物を持ってきて頂くようにしている。	利用者の希望で和室・洋室が選択でき、ベッド等設置されている。備品は簡素に配置され、広く空間が確保されている。家族の写真、思い出多い馴染みの物が飾られ、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の整備をし、個々にあった支援をし、居室には目印があり分かりやすくしている。		